

# うちのまち

vol.11

サクッ、サクッ、サクッ……。  
新雪を踏む音が雪山に吸い込まれていく。  
雲の間から青空がのぞき、白い森の中に光が差し込む。  
風が吹くと、枝の粉雪がキラキラしながら舞い落ちた。  
ここは大江山。  
毎日眺めている山は、こんなにも美しかったのか。  
雪が解けたら、また登ろう。  
大江山が好きになった。





# 短編小説 大江山遠足

## 小6以来 43年ぶり



孝治は大江山に登っていた。足を踏み入れたのは桑飼小6年生の遠足以来、実に43年ぶりだ。尾根に上がるにササの原っぱに出た。背丈ほどのササをかき分けて歩いた思い出があるが、なぜかササは腰の高さまでしかない。「こんなに低かったきゃあ〜やあ〜」首をかき上げる孝治の横で、幼なじみの志郎は言った。「おみや〜がデカくなったんだ〜や〜」

孝治は織機の部品工場を営んでいる。お互い久しぶりの再会だ。「どうでやあ〜？ 元気やとらんきやあ？ ちょっとまた太ったんちやうんきやあ？」。少し出てきたおなかを志郎にポンとたたかれた孝治は言った。「貧乏暇なしだ〜やあ。暇さあつたら仕事しとるわや。そりゃ腹も出るわやあ。孝治の実家は山のふもとの温江地区。幼いころの遊び場といったら山と田畑しかなかった。ずっと大江山を背中にして暮らしてきたが、あまりに身近すぎるからか「登りに行く」なんて思ったことはない。まあでも運動不足だし、最近肩こりもつらい。どうしたのかかと思っていたところに、和哉から電話がかかってきたのだ。孝治の格好はジャージー姿で小さなリュックを背負い、足元はスニーカー。志郎と集合場所に到着すると、スポーティーな出で立ちの男が待っていた。「おう和哉！ なんじゃ、おみや〜だけ格好ええわや」。通気性の良さそうな赤のナイロンパーカーに身を包み、歩き良さそうな紺の登山パンツに足回りは軽いトレッキングシューズ。和哉は日焼けした顔で笑いながら言った。「まだ一応、現役だっや」。地区対抗の与謝野

町駅伝は毎年出場している。秋にある大江山登山マラソンで完走するのも目標の一つ。近年は全国の山々で「トレイルランニング」というスポーツが脚光を浴びている。10年以上も続く大江山登山マラソンは、その先駆けだ。参加者が毎回1000人を超えるというのだから、その世界では知る人ぞ知るフィールドなのだ。和哉は以前の大会で大阪のランナーと仲良くなった。「秋に家族と大江山に登ってみたいが、どんな様子だろうか。そんな質問を受けた和哉は一度ゆっくり山を歩いてみようと思ったのだ。

## 学級のアイドル 山ガールに

もう一人誘っていた。京丹後市に住む寛子だ。同級生の中でひととき輝きを放つアイドル的な存在だったのだが、3年前に「大江山鬼っこの会」というグループに入って、よく大江山に登っているらしい。「ごめん遅くなって。現れた寛子は見事に「山ガール」に変身していた。黒いタイツに巻きスカート。チェックのシャツと帽子をかぶり、笑顔で駆け寄ってきた。「がっしやあ〜、可愛いんとちゃうん。山道ですれ違ったら振り返ってしまわや〜。目を丸くした3人に、寛子はポーズをとっておどけて見せた。

## 花の百名山

寛子もよく山で遊んだが、小学校卒業後は全く興味なし。我が子が東京の大学に行き、身軽になった時に友人に誘われたのが鬼っこのツアーだった。大江山を歩いていると、アケビやナツメヤシの実がどの季節にどこに実っていたか、記憶がよみがえってきた。「年を取ると子どものころの世界に戻りたくなるのかもしれないね〜」。ツアーに通い始めると、実は大江山が「新・花の百名山」に数えられていると知った。雪解けの時に「まず咲く」のがマンサク。キブシやダンコウバイもそうだが、虫たちに見つけてもらいやすいように黄色くて香りを放つ花が多い。4月になって暖かくなると、紫外線を反射する白い花が増えてくる。遠くからも目立つタムシバはモクレンの仲間。冬は落葉しているが、気温が上がると一斉に10センチほどの純白の花が咲き乱れる。釣り鐘状の花が鈴なりになるアセビやヒユウガズミスキの群生地もある。鬼っこの会で写真係を務める寛子は「春の大江山を歩くときウキウキするの。白と黄色の花たちと豊かな香りに包まれて、生き物たちと春を迎えた喜びを分かち合えるってすてきなじゃない？」と話し、紅葉の前でカメラ構えた。

## 在岩滝の山岳ガイド

きょうのナビゲーターは鬼っこの会の高崎洋一朗さん。岩滝在住で日本山岳ガイド協会の資格を持つ。北アルプスをはじめ全国の山を知る、頼れるガイドだ。「さて出発しましょうか」。初めの山道は、けっこうな傾斜がある。孝治は5分もたないうちに息が上がった。「もう、えりや〜わ。振り向いた和哉は涼しい顔をしている。「おみや〜、こんな山道を走るとらんきやあ、感心するわあ」。高崎さんが立ち止まって大江山の成り立ちを話し始めた。日本でも有数に古い山で、4億6000万年前の地層が盛り上がりてきたのだという。孝治の息が落ち着いたところで「さて行きましょうか」。持ちネタを披露しながら休憩をとり、みんなが楽しく登れるペースを保つのがガイドの大事な役割だ。



登山ガイドの高崎さん

## 加悦谷を一望

少し進むとスキの茂みにさしかかる。見上げると、白い雲が足早に流れてゆく。青い空に向かって坂を上ると、加悦谷平野を見渡す展望台にたどり着いた。志郎が住んでいるりめん街道が、はるか遠くに小さく見える。「自分の家を山の上から眺めるなんて久々だっや」。町役場に勤める志郎は汗をぬぐい、水筒のお茶を一杯、ぐいっと飲み干した。高崎さんは言った。「晩秋の朝には別世界のような雲海が広がります。田植えの直後には水を張った田んぼに空が映って加悦谷平野が水色に輝く。与謝野町は季節によって表情を変えるんです」

## 野鳥のホットスポット

なだらかな尾根が続く。落ち葉の感触を楽しみながら歩くと、登山道は雑木林の中へと入っていく。山栗がじゅうたんのように落ちている。割れたイガの中に親指の爪ほどのクワが見えた。「これを栗ごはんにすると、うみや〜んだで」。寛子が拾ってはポケットの中へ。大きな針葉樹がそびえる山道にさしかかると、「ツツツ、タタタタ……」と鳥の声がした。可愛い鳴き声は道脇の木々の中から聞こえる。「コガラとエナガね。野鳥は広葉樹と針葉樹の境目に集まってくるんだって」。寛子は首から提げた双眼鏡で林の中をのぞき込む。姿は見えないけれど、すぐそばにいる。耳を澄ませば遠くで遠くで鳥の声も



コガラ

する。「自然林が残る大江山は野鳥のホットスポットなの。この前も名古屋から鳴き声を録音しに来た人がいたわ」

小学校の遠足は健脚組とそうでない組に分かれていて、早い子はどんどん先に登っていった。近道をしたり獣道を通ったり。先生もほっとらした。孝治はマイペース。そこは今は変わっていないが、下り坂が少々つらい。いつしか体重は90kgを超えていた。落差のある坂を一步下りた際に「わしの体はこんなに重たかったんきや？」と実感するのだった。

## 山頂のにぎり飯

桑飼小出身の志郎は、遠足の前日におやつを買いに行くのが楽しみだった。「みんなで山金商店に集まったなあ〜」。300円までOK。前の晩は赤いナップザックにお気に入りのお菓子をを入れて寝たが、「うれしくて寝れなだっや」。水筒にこっそりジュースを入れて飲む。そして一番のお楽しみはお昼ご飯。アルミの弁当箱を開いて互いのにぎり飯を交換するのがお決まりの儀式。和哉は「甘めの家庭としょうゆ味の家庭があって、よその家の卵焼きの方がうみや〜気がしたっや」と懐かしむ。40年もの前だが、同じ時間をすごした仲間が集まれば思い出すものだ。思い出は足を進めるほどによみがえり、ポロリポロリと口をついた。



90分ほど歩いたのだろうか。コナラのトンネルを抜けたら草原が広がった。着いた。千丈ヶ嶽だ。大江山連峰で一番高い場所。832mある。汗ばんだ額に、冷たい風が心地よい。孝治は上着を脱いで汗を拭いた。「いやー、がっしや〜気持ちええわ」。弾んだ息が落ち着くと、腹が減ってきた。一番楽しみにしていた時間。孝治が弁当包みをほどくと、妻が用意してくれたワカメご飯のおにぎりが二つ。

弁当箱を開いたら卵焼きが入っていた。温州ミカンもついている。「年が若いものウキウキするわや」。照れ笑いをしながら孝治はおにぎりをほおばった。何とオシシことか。まさか、この年になって山のてっぺんにおにぎりを食べるとは。高崎さんが携帯コンロで湯を沸かし始めた。隣には小さな味噌汁カップ。味噌の匂いが漂うと、3人のおなかが始動した。「皆さんの分もちゃんと用意してますよ」。普通の食べ物、山で食べるとめっちゃめっちゃ美味い。地元の和菓子と抹茶も振る舞ってくれた。山頂で味わう和菓子はまた格別だ。近くで団体が休憩していた。京都市内の登山

会で、関西の山に登り歩いているらしい。「どこからおいでになったのですか」。初老の男性が話しかけてきた。「いや〜、地元の方です。40年ぶりに登ってきたんですわ」と孝治が説明すると、男性は言った。「それはすてきですね。どこの山も、登ってくるのは遠方の方が多くですから」。志郎は神戸に住む義兄が言っていた話を思い出した。兄が与謝野に来た時に「大江山に登ろう」と誘われた。同行すると、兄は登りながら何度も「与謝野はこんな良い山があるのか」と感心していた。「ほどほどの標高のところまで車で上がられて、40分

ここで山頂まで行ける。登山道も歩きやすい。こんな山はなかなかないんだ」。力説する兄の話聞いて、志郎はつぶやいた。「近くに住んでいる者が、実は一番知らないのかもな」

5人は坂道を下り始めた。登ってくる人とあいさつを交わしながら歩いていると突然、孝治が叫んだ。「うおつ、足がつった」。運動するのはいつ以来だろう。体が驚いているのが分かる。そういえば小学生の時、遠足のことをつづった日記には「足が棒のようになりました」と書いたなあ。今は棒になるどころじゃない。ひざがきしむ……。顔を上げるとみんなと距離が離れていく。やばい。待ってくれ!!

## 「また行こうぜ！」

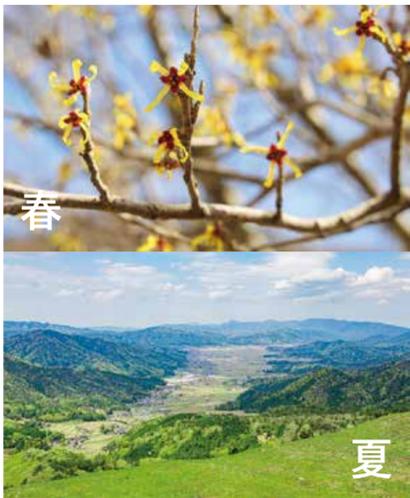
最後に運動不足を痛感した孝治だが、帰宅後は不思議な感覚を味わっていた。疲れているのに心地よい。翌日、志郎と和哉とLINEで話した。「ちょっと体を動かすのには丁度いい山だなあ」「頂上で食べたおにぎりが真剣うまかった。あの開放感最高だわ」。3人は鬼っこの会が作った大江山連峰トレイルマップ(500円)を買った。「また行こうぜ」。孝治は今年、春の山を歩いてみたいと思っている。今度は息子の家族も誘おうか？ 近くで遠かった大江山。最初は不安だったが、半日あれば気軽に行けると分かった。仕事に疲れたら気分転換に登ってみよう。自分をリセットできる場所が、近くに見つけられた気がした。

この物語は現場取材に基づく創作です。鬼っこの会の高崎さんは実在の人物です。

## 春のもぐもぐハイク@赤石ヶ岳

鬼っこの会ガイドで咲き始めのマンサクや春の芽生えを楽しみながら、大江山で一番近くで登りやすい赤石ヶ岳へ。下山後は地元食材のランチを加悦双峰公園で楽しめます。

2019年3月31日(日) 9時30分～(14時解散)  
集合場所 加悦双峰公園管理棟前  
参加費 1,500円(要申し込み。昼食・保険・ガイド料込み)  
与謝野町観光協会(0772-43-0155)  
主催 大江山鬼っこの会、与謝野町



## 多彩な登山道 楽しみ方は四季折々

大江山は与謝野町、宮津市、福知山市にまたがる連山で、丹後天橋立大江山国定公園に指定されている。北東から鍋塚(763m)、鳩ヶ峰(746m)、千丈ヶ嶽(832m)、赤石ヶ岳(736m)の四つのピークがあり、それらを総称して「大江山連峰」と呼んでいる。

与謝野町側の登山口は、加悦双峰公園と池ヶ成キャンプ場の2カ所がある。おすすめのコースは、上の小説と同じ尾根道と、大江山の最高峰からの眺めを堪能しよう。池ヶ成キャンプ場からは、鬼の岩屋という洞窟を経由して航空管制塔まで行くルートがおススメ。航空管制塔の近くからは宮津湾や舞鶴湾が一望でき、春になると鬼の岩屋の近くにマンサクが咲き誇っている。その他にも、鳩ヶ峰や鍋塚から望む加悦谷平野の大パノラマ、晩秋の赤石ヶ岳から見る雲海、千丈ヶ嶽の紅葉、冬の雪山トレッキングなど、四季折々の見どころが満載だ。

詳しい登山ルートは大江山連峰トレイルマップ(500円)を参照してほしい。町内のナミエ書店・まるぜん書店・与謝野町観光協会が販売している。大江山鬼っこの会では登山ガイドを派遣している。野鳥や植物、地質学など要望に応じて手配できる。料金は参加者2人以上で1人2,500円。その他様々な登山ツアーを開催している。詳細は与謝野町観光協会のホームページで。

加悦双峰公園から池ヶ成キャンプ場まで縦走して大江山を満喫したい、ハイキングの後にはゆっくりしたい。そんな方には、池ヶ成キャンプ場に近い「かや山の家」(与謝野町温江1401)が便利だ。反対側の加悦双峰公園までの送迎と入浴サービスが付いたお弁当コース(2,600円)や、お弁当コースに夕食が付いたコース(5,400円)があり、1泊3食付きでも9,720円とリーズナブル。池ヶ成キャンプ場からの登山道は土砂崩れで通行止めになっているが、秋には開通予定だ。

大江山は与謝野町、宮津市、福知山市にまたがる連山で、丹後天橋立大江山国定公園に指定されている。北東から鍋塚(763m)、鳩ヶ峰(746m)、千丈ヶ嶽(832m)、赤石ヶ岳(736m)の四つのピークがあり、それらを総称して「大江山連峰」と呼んでいる。

与謝野町側の登山口は、加悦双峰公園と池ヶ成キャンプ場の2カ所がある。おすすめのコースは、上の小説と同じ尾根道と、大江山の最高峰からの眺めを堪能しよう。池ヶ成キャンプ場からは、鬼の岩屋という洞窟を経由して航空管制塔まで行くルートがおススメ。航空管制塔の近くからは宮津湾や舞鶴湾が一望でき、春になると鬼の岩屋の近くにマンサクが咲き誇っている。その他にも、鳩ヶ峰や鍋塚から望む加悦谷平野の大パノラマ、晩秋の赤石ヶ岳から見る雲海、千丈ヶ嶽の紅葉、冬の雪山トレッキングなど、四季折々の見どころが満載だ。

詳しい登山ルートは大江山連峰トレイルマップ(500円)を参照してほしい。町内のナミエ書店・まるぜん書店・与謝野町観光協会が販売している。大江山鬼っこの会では登山ガイドを派遣している。野鳥や植物、地質学など要望に応じて手配できる。料金は参加者2人以上で1人2,500円。その他様々な登山ツアーを開催している。詳細は与謝野町観光協会のホームページで。

加悦双峰公園から池ヶ成キャンプ場まで縦走して大江山を満喫したい、ハイキングの後にはゆっくりしたい。そんな方には、池ヶ成キャンプ場に近い「かや山の家」(与謝野町温江1401)が便利だ。反対側の加悦双峰公園までの送迎と入浴サービスが付いたお弁当コース(2,600円)や、お弁当コースに夕食が付いたコース(5,400円)があり、1泊3食付きでも9,720円とリーズナブル。池ヶ成キャンプ場からの登山道は土砂崩れで通行止めになっているが、秋には開通予定だ。

大江山は与謝野町、宮津市、福知山市にまたがる連山で、丹後天橋立大江山国定公園に指定されている。北東から鍋塚(763m)、鳩ヶ峰(746m)、千丈ヶ嶽(832m)、赤石ヶ岳(736m)の四つのピークがあり、それらを総称して「大江山連峰」と呼んでいる。

与謝野町側の登山口は、加悦双峰公園と池ヶ成キャンプ場の2カ所がある。おすすめのコースは、上の小説と同じ尾根道と、大江山の最高峰からの眺めを堪能しよう。池ヶ成キャンプ場からは、鬼の岩屋という洞窟を経由して航空管制塔まで行くルートがおススメ。航空管制塔の近くからは宮津湾や舞鶴湾が一望でき、春になると鬼の岩屋の近くにマンサクが咲き誇っている。その他にも、鳩ヶ峰や鍋塚から望む加悦谷平野の大パノラマ、晩秋の赤石ヶ岳から見る雲海、千丈ヶ嶽の紅葉、冬の雪山トレッキングなど、四季折々の見どころが満載だ。

詳しい登山ルートは大江山連峰トレイルマップ(500円)を参照してほしい。町内のナミエ書店・まるぜん書店・与謝野町観光協会が販売している。大江山鬼っこの会では登山ガイドを派遣している。野鳥や植物、地質学など要望に応じて手配できる。料金は参加者2人以上で1人2,500円。その他様々な登山ツアーを開催している。詳細は与謝野町観光協会のホームページで。

加悦双峰公園から池ヶ成キャンプ場まで縦走して大江山を満喫したい、ハイキングの後にはゆっくりしたい。そんな方には、池ヶ成キャンプ場に近い「かや山の家」(与謝野町温江1401)が便利だ。反対側の加悦双峰公園までの送迎と入浴サービスが付いたお弁当コース(2,600円)や、お弁当コースに夕食が付いたコース(5,400円)があり、1泊3食付きでも9,720円とリーズナブル。池ヶ成キャンプ場からの登山道は土砂崩れで通行止めになっているが、秋には開通予定だ。



## かや山の家 お食事券プレゼント

うちのまち第11号「大江山遠足」をお読みいただきありがとうございます。ご感想や取り上げてほしいテーマなどを、はがき、メール、右のQRコードからアクセスできるアンケートフォームのいずれかでお寄せください。与謝野の食材をふんだんに使った季節のミニ会席や、名物の牡丹鍋などが自慢のかや山の家「お食事券5000円分」を、抽選で1名の方に贈ります。2019年3月31日消印有効です。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。メール・はがきの場合は、お名前、ご住所、電話番号、ご感想を明記の上、右下記載の与謝野町商工振興課までお送りください。

